第３学年　美術科学習指導案

日　時　平成２７年10月１日(木)
授業者　教　諭　古川　里美
学　級　３年４組(男子18名・女子15名・計33名)

１　単元名　文化遺産を守る－美しい形や色彩を未来へ残そう－　〔観賞〕
教材名　岡本太郎作～『明日の神話』が語りかけるもの～

２　単元について

（１）教材観

『２１世紀は、行方の見えない不安定な時代だ。テロ、報復、果てしない殺戮、核拡散、ウィルスは不気味にひろがり、地球は回復不能な破滅の道に突き進んでいるように見える。こういう時代に、この絵が発するメッセージは強く、鋭い。この絵が３５年ぶりにひょっこり出てきたことに、私は岡本太郎の意志を感じる。「明日の神話」は、原爆の炸裂する瞬間を描いた、岡本太郎の最大、最高の傑作である。』とは、岡本敏子の弁である。

「芸術は爆発だ！」のフレーズで知られる岡本太郎は、１９１１年漫画家岡本一平・歌人かの子夫妻の長男として出生。東京美術学校に入学するも僅か半年で中退、両親と共に渡仏。ピカソの抽象画「水差しと果物鉢」に感銘を受け、カンディンスキーやモンドリアンが所属する「アブストラクシオン・クレアシオン協会」に参加する一方、パリ大学にてマルセル＝モースやジョルジュ＝バタイユ等著名な思想家とも親交を結び、戦後日本のアバンギャルド（前衛）芸術の旗手として次々に話題作（「痛ましき腕」「重工業」「森の掟」等）を発表。

１９７０年には、それまで「人類の進歩と調和などは妄想だ」として反万博を唱えていた岡本が、建築家丹下健三に乞われ、「それならば！」と、丹下設計のお祭り広場大屋根に風穴を開け（経済成長の誇示に対決）築いたのが、あの巨大モニュメント『太陽の塔』。その「すっとんきょう」な外観とは裏腹に、胎内に据えられた人類進化の過程を示す大樹《生命の樹》や、地下に陳列された多数の原初的な仮面や民族衣装・美術品の数々からは、まさに人間の『生きるエネルギーを爆発』させた『命』を象徴的に読み取ることができた。

そして最も驚くべきことは、この壮大な『太陽の塔』プロジェクトの間隙を縫って取り組まれた、『明日の神話』製作作業に私は、太陽の塔では「してやったり！」と豪語できなかった岡本の真髄である『科学を人間の手中に取り戻せ！』とする、最重要なメッセージを、燃えさかる火の玉のような作品として地球の裏側から放出してみせていた、その計り知れないバイタリティと、一芸術家が社会と対峙する際の揺るぎのない生命尊重の姿勢に魅せられての題材設定である。

（２）生徒観

絵を描くことや美術作品を鑑賞するにあたって、一般的な考えとしては、「あるものをそのまま描きたい」、「上手（精密）に描かれているものが良いものだ』といった価値観が、とりわけ中学生には拭い去れない意識として存在し続けている。中でも形態のデフォルメや色彩の個人的な昇華については、その作家の人生経験を礎に作品分析に立ち入らねばならないことから、これらの問題に関してはこと多数の美術作品に触れる機会の少ない（本校）中学生にとっては、日常生活の外に留まった置き去られた問題としか受け止められていない実情がある。

したがってこの場では、岡本太郎『明日の神話』を題材に、主体的表現方法の多様さと、とりわけ社会と芸術との関わりについても思考を及ばせ、時には世情を突き動かすパワーをを生み出したり、教科書単元設定にもあるよう『遺産』として、時を突き抜けながら私たちの心を揺さぶり続けたり、尚強烈なメッセージを叫び続けるエネルギーが秘められていることを生徒等の意識の中に共有・発見させていきたいと考える。

（３）指導観

３年生の生徒達は１学期のうちに『ゲルニカ』を学び、ピカソの青年期から青の時代、バラ色の時代、そしてキュビスムという新たな表現技法が産み出されていくに至った過程を学んできている。とりわけ、自分の祖国が人類初の無差別空爆によって、戦争がいとも簡単に一般人を巻き込んでしまった最悪な新局面（暴挙）を、強烈な怨念を持って描き尽くしたこと。それでも尚、新たな希望と夢は捨て去るまいと折れた剣の根本に一輪の花、構図の中心には真実の光（ランプ）をかざす女神が描かれていたことに、ピカソという人物の偉大さを垣間見せられてもきた。

この場では、文化遺産を守る単元に掲載された『明日の神話』が、故岡本敏子の執念によって奇跡的（３５年ぶり）に発見され、それが有識者による再生プロジェクトの結成により、まる１年間にも及ぶ困難な修復作業を経て、完璧な再生を果たしたこと。描かれたモチーフが原爆が炸裂した瞬間であったこと、炎を発して燃える人間やキノコ雲、稲妻や爆風を感じさせる空の彼方には、マグロを釣りあげる途中の第五福竜丸と仲間の漁船の姿。そして極めつけは、３・１１東日本大震災の際、ちょうど第五福竜丸の真下にすっぽりと収まる形で描き足された福島第一原発崩壊の図（美大卒の青年達によるもの。一晩もたたぬうちに撤去された）にまでスポットを当て、再度「ゲルニカ」や丸木位里・俊夫妻の「原爆の図」なども絡めながら、私たちと社会を繋ぐ大きな力＝「架け橋」としての芸術作品、『新生・明日の神話』が語りかけるものはいったい何か？としての探り出しを試みるものである。

３　単元の目標

文化遺産や美術作品から、造形的魅力や作者の心情・意図を感じ取り、その良さや美しさを味わう。

４　単元の評価規準と評価計画・指導計画

時	指導計画	評価規準	
		美術への感心・意欲・態度	観賞の能力
1	岡本太郎の人物と作品群を探る	「芸術は爆発だ!!」の名言を遺した岡本太郎の人物像と、その作品群に興味を持ち、解明への意識を持つことができる。	岡本が代表作「太陽の塔」に込めた願いや目的を読み取り、唯一記念碑的モニュメントとして現存する理由について考えることができる。
2	「明日の神話」が私たちの社会に語りかけること	「明日の神話」再建に繋がる過程に関心を持ち、その作業の重要性と作品自体が発するメッセージを、主体的に読み解く姿勢が持てる。	「明日の神話」に描かれたモチーフや構成から、岡本が伝えたかったメッセージを読み取り、芸術と社会との関わりについて考えることができる。

５　本時の指導計画

（１）目標

「明日の神話」に描かれたモチーフや画面構成から、岡本が伝えたかったメッセージを読み取り、芸術と社会との関わりについて考えることができる。

（２）予想されるつまずきと対処法（別紙「本時のUD全体構想図」の通り）

（３）本時の展開案（別紙の通り）

心構えとして・・・

数奇な運命を辿るも、多数の人々からの応援を得て完全復活を果たした『明日の神話』。３・１１震災時に描き加えられた原発の図のエピソードが、もし岡本の耳に伝われば、「よくぞ描き足してくれた！」と、青年達に岡本は握手を求めていったのではないか。一枚の絵や構築物が人の心を動かすとは、まさにこのようなことを指すのであろう。

戦後７０年を迎えた今日の日本は、現在大きな分岐点にさしかかっていると言える。今こそ、先人が築いてきた『平和の礎』をしっかりと守り抜き、すべての人間を平等に受け入れられる世界の範たる至高の平和意識を、未来を担う子ども達とともに共感できる１時間としたい。

結びに・・・

「私は、取り返しのつかない過ちを犯してしまった。」として、戦意高揚を説いてきた教師たちは大きな自責の念に駆られ、戦後その職を辞したり、中には自死に追い込まれる人物が少なくなかったのだと聴いた(この事実が、私を教職へと導いた一番の切っ掛けでもある)。

７０年安保の当時、小田実や鶴見俊輔らとベ平連（ベトナムに平和を市民連合）を組織していた美術評論家針生一郎（晩年は、丸木美術館館長）が我が師であることから、井上ひさしが述べるところの、『平和は守るものではなく、創っていくものだ！』といった意識は、私の学生時代から今日に至るまで、３５年を越える歳月を貫き通してきた信念でもある。

そして、今私が加えておきたいのは、『戦争を知らない子ども達（他者を憎む怨念を持たない）だからこそ、真の幸せが謳歌できる！そのために歴史の事実や、民族・文化遺産への正しい理解が不可欠である!!』といった意識である。

◆明確な授業のゴール

『明日の神話』のメッセージと、修復の重要性を理解することができる。

1．核兵器の脅威と、それを描かずには居られなかった岡本の心情に迫り、芸術と社会の関わりについて思考を深めることができる。

2．多額の修復費を投じてもなお後世に伝えるべき美術品の影響力と、その重要性が理解できる。

◆そのために必要な押さえておくべき事

1．①『明日の神話』に描かれたモチーフと、その形態や画面全体から醸し出される雰囲気を正確に読み取ること。
②岡本が核廃絶を叫ぶ切っ掛けとなった、第五福竜丸の事件について、概略が掴めること。

2．困難な修復作業の実態を良く理解すること。

◆予想されるつまずき

1．①何が描かれているのか、すべてを読み取ることができない。
炎の勢いや形、風（爆風）、色彩の様子から受ける印象を上手に言葉にすることができない。
②第五福竜丸事件の重大さが理解できない。
②'岡本が発するメッセージ（核兵器の廃絶）が読み取れない。

2．実際の現場に立ち会うことが不可能なこと、ＶＴＲの映像だけではその困難さが上手く伝わらない事が考えられる。

◆つまづきをクリアさせるための工夫・配慮（UD）

1．①．拡大図版に用いてモチーフの読み取り　【視覚化】
ワークシートに記入し、全員で目視確認　【焦点化】
構図や色彩、筆致から受ける感覚を素直に述べさせ、岡本特有の表現方法(前時)についても説明を加える。
【スパイラル化】

②．第五福竜丸被爆の事件について振り返り、被爆の悲惨さについては再度写真集（森住卓によるもの）なども用いて説明。その深刻さを共有する。　【共有化】

②'．『科学を人間の手に取り戻す！』といった、岡本が持つ根底の意識を『太陽の塔』（内部）に立ち返って説明。
【スパイラル化】

2．修復作業の様子を示すVTRに加え、骸骨部表面突起（ウレタン素材）などの細部写真や、発見当時の汚れのついた状態の画面と、洗浄後に表れた色彩の違いなどについて説明を加える。　【視覚化】

※その他、生徒の関心を惹きつけるものとして、大阪万博時の太陽の塔（パネル）や、丸木位里・俊夫妻による『原爆の図』、香月泰男『シベリヤ抑留』などの複製画も合わせて提示の予定である。　【視覚化】

本時のUD全体構想図

（3）展開

時間	学習内容 「主な発問・指示」	生徒の活動（◇） 「予想される生徒の反応」	留意点・評価（○） UDの視点による手立て（★）
導入 7分	1．岡本太郎について 「岡本太郎は、どんな作品をつくっていたのだろう？」 (3分) 「岡本太郎は、どんな人物でありどんな存在だったのか？」 (2分) 2．代表作「太陽の塔」 「『太陽の塔』製作の経緯と、反万博の岡本がそのモニュメントに託した意志は？」 (2分)	◇前時学習の印象を振り返り、伝える。「強烈な色合い」「ユーモアのある像」など。 「芸術家の両親のもと、リベラルな教育を受ける。『変わった人』『真っ直ぐな人』、『意志の強い人』等々。 ◇前時の復習に応える。「製作を引き受けることで、経済成長の誇示に対決しようとした。」	★岡本の代表作をTV画面にて紹介 (視覚化) 『対極主義』について再確認を行う。 ★資料集での確かめ　(スパイラル化) 岡本の原点は、『科学や技術の進歩を、人間の手に取り戻すこと』にある。 ○万博の開催に反対していた岡本が、なぜ製作を引き受けたのかについて前時の確認を行う。 (共有化) ★パネルを提示し、壮大な作品であることを確認 (視覚化)
	～甦った『明日の神話』は、何を語りかけていたのか？～を探る		
展開 35分	3．『明日の神話』観賞 「画面には何が描かれ、画面全体から、どんな雰囲気を感じましたか？」 (5分)	◇挙手にて描かれたモチーフを、丹念（様子を含めて）に拾い上げ、印象を個別に述べる。 「連なるきのこ雲、炎に包まれる人間、埴輪のような人影、吹き飛ばされる船、談笑する人たち」など。 「力強いタッチや炎の勢いから『爆発！』を感じる」「鳥のような頭から叫び声が 聞こえる」など（こだわりのある回答を引き出したい、場合によっては質疑も）。	○事前アンケートを返却。上手い言葉が見つけられなくても、躊躇させず発言させたい。 ★注視してマチエールを読み取る（視覚化） 写真・拡大映像を含めて ★意見を伝えたり受け入れる（共有化） ○純粋な感性で味わう言葉や感情、視点の違いを認め合い共有する。
	4．『明日の神話』が語りかけるメッセージは何だろう？ 「『明日の神話』に託されたテーマを読み取ってみましょう。」(13分)	◇自分の考えを先ずはグループ内で提示し合う。また、そう判断した理由も加えさせ、グループ毎（９班）に回答。 ◇グループ毎に主な回答と、こだわりのある回答を発表（場合によっては質疑）。「世紀末（世界の終わり）を思わせる絵だ」「原爆や戦争は、二度と繰り返されてならないものだ」等	★意見交流（共有化） ○仲間の意見に耳を傾け、受け入れる（あるいは質問する）ことができる。 ★討論カードの配布（焦点化）
	「『明日の神話』を、もっと良く観てみましょう！」 ※敏子の作品解説を聞きながら確認 (6分)	◇描かれたモチーフと、画面ストーリーの確認。 ◇ワークシートに再度自分が感じた『明日の神話』の印象と、作品が発するメッセージを記入する。	★ワークシートを配布し、教科書図版に合わせ確認させる。 （第五福竜丸についても解説を加える）
	5．渋谷駅コンコースの『明日の神話』 「なぜ、渋谷駅が選ばれた？」	◇挙手にて回答 「とにかく多くの人たちに観てもらいたかった」「大勢の人々に受け入れられやすい作品であった」等	○敏子が、「岡本は今も生きている」と語っていたこと（＝いつでもみんなに岡本を感じていてもらいたい）。 生前岡本は、自分の作品が個人コレクターによってお蔵入りすることを極端に嫌っていたことなどを説明。
	「例えば丸木夫妻『原爆の図』」や香月泰男『シベリア抑留の図』に比しては？」 (6分)	◇「リアルすぎ、悲壮感で真っ暗＝公共の場にはそぐわない」等	○同様なメッセージを持ちながらも、多様な表現方法があることを解説。
	6．描き加えられた福島第一原発 「いったいこれは何だろう？」 「誰が、どんな気持ちで描き足したのだと思いますか？」	◇『誰がどんな気持ちで描き加えたのかを考えてみよう！』に沿って各自の意見を挙手にて発表する。「『許せない人災』『放射能の恐怖』を訴えたかった」等	★教科書図版との比較（スパイラル化） ○甦った『明日の神話』（岡本の意志）が人々の心を動かし、行動に移させたことを説く。
	「一晩で撤去されたことについてどう思いますか?」 (5分)	◇「芸術作品が傷付けられては困るといった意識がある」「本音はみんな、よくやった！と思っている」等	○ネットでも話題になった『付け足し画』（落書きとは言えない・・・）への支持がかなり多くあったことを補足。
まとめ 8分	7．本時のまとめ 「一点の絵や、一人の人物の行動が、人間の生活に潤いを与えたり、一つの国や世界までをも突き動かすエネルギーを持つことが分かりましたか？」 (8分)	◇「芸術は爆発だ！（マクセル）」等３種のコマーシャルと、バラエティ番組にまで登場した岡本の「大衆と繋がろうとした行為」について意見交換を行う。 ◇ワークシートのSpecialクエッション【芸術と社会はどのように関わっているのだろう？】に記述回答。 修復された『明日の神話』が、「渋谷駅で多くの人たちに勇気と元気を与えている」といった感想に繋がるとよい。	★意見交流（共有化） 美術（芸術）品がもたらす人間と社会への影響力について考えを深めさせる。 「絵は、見る人の眼と心によって甦る（ピカソ）」の言葉に収斂されることを確認。

矢巾中学校美術科

鑑賞授業事前アンケート

３年 ＿＿ 組 ＿＿ 番　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〔１〕 彫塑室ロッカー上の絵を、初めてみての印象を教えて下さい。

〔２〕 この絵には、何が描かれていると思いますか？　描かれている（わかる）ものをすべてを挙げてみて下さい。

〔３〕 この絵の作者は、この絵によって何を伝えたかったのだと思いますか？

矢巾中学校　美術科

『明日の神話』を読み解くシート

3年＿＿組＿＿番 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅰ．岡本太郎はどんな人物だった？

○「芸術は爆発だ！」を唱えた人　○ユニークな発想力を持った人
○多才な人（絵・彫刻・陶芸・写真等）　○縄文土器に刺激を受けた人
○妥協を許さなかった人　○漫画家一平と、歌人かの子の子
○「挑む！（対極主義）」をスローガンとした人　etc…

Ⅱ．「太陽の塔」は、どんなモニュメントだった？

○大阪万博のメインシンボル　○万博反対の意志も秘められていた
○埴輪からイメージした形象である　○「すっとんきょう」な形
○光と影（過去・現在・未来）を表した像である。
○内部に「生命の樹」と、民族学資料が展示されていた。　etc…

※縄文に魅せられ、岩手（藤沢町）の『野焼き祭り』に感動した岡本太郎

岡本は藤沢野焼き祭りに参加し、何十という炎が燃え上がる壮大さに興奮した。それにもまして、町民が本当にうれしそうに一生懸命かつ無条件、無償で生き生きと祭りを盛り上げている姿に感動する。「この町民のあり方が、まさに縄文人です。ここには縄文人がたくさんいる。この祭りは本当に縄文人の祭りだ。」（全文は、資料No.3に）

Ⅲ．『明日の神話』に描かれているものを確かめましょう！

A; 逃げ惑(まどう)う動物　B; 魚を釣る船　C; 燃え上がる骸骨　D; 赤い鳥の頭

E; 沢山のきのこ雲　F;稲妻のような赤い炎　G;炎の中の小さな人間　H; 語り合う人間

Ⅳ．再度『明日の神話』の、画面全体から受ける印象はどのようなものでしょう？

※第五福龍丸（遠洋マグロ漁船）被爆事件

第五福竜丸は1954年3月1日、南太平洋ビキニ環礁での米軍による水爆実験「キャッスル作戦」に巻き込まれて被爆。発生した多量の放射性降下物（死の灰）を浴び、乗組員23名の内、無線長だった久保山愛吉（４０歳）さんが半年後の9月23日に死亡した事件。
この出来事は当時「第三の被爆」として、日本国内に反核運動の大きな波を呼び起こした。

Ⅴ．再度『明日の神話』が、発するメッセージ（岡本が言いたかったこと）って何だろう？

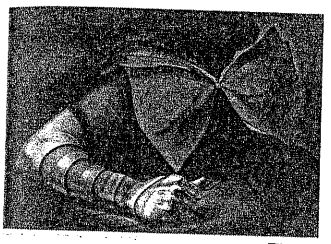
なぜ渋谷駅に？

更に加えて、『何でしょう？ これは?!』

Special クエッション

『芸術は爆発だ!』『何だ、これは!?』の岡本太郎(1911～1997) 略歴

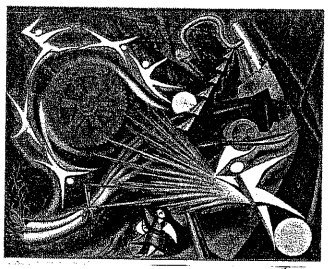
1918（0歳）：漫画家岡本一平、歌人・小説家岡本かの子の長男として生まれる。
1918（7歳）：小学校を３度転校の後、慶応義塾幼稚舎に入学。
1929（18歳）：慶應義塾普通部卒業。東京美術学校（現東京芸術大学）西洋画科に入学。
12月に一家で渡欧（大学は一時休学の後、退学）
1931（20歳）：フランス・パリ校外に居住。
1932（21歳）：パブロピカソ「**水差しと果物鉢**」に感銘を受ける。
アブストラクション＝クレアシオン（抽象・創造）協会に参加、作品を出品。
1936（25歳）：思想家ジョルジュ＝バタイユの演説に感銘を受け、
その後シュルレアリスムの旗手マックス＝エルンスト
やアンドレ＝ブルトンらと親交を深める。
『**痛ましき腕**』を発表。


『痛ましき腕』 1936

1937（26歳）：パリ大学にて、マルセル＝モースのもと民族学を学ぶ。
1942（31歳）：応召を受けて現役初兵として中国戦線に出征。
1948（37歳）：花田清輝らと「夜の会」を結成、前衛美術運動を始動する。
埴谷雄高、野間宏、椎名麟三らが参加。
『Night（夜）』を発表。

『Night（夜）』1948

1949（38歳）：第34回二科展に『**重工業**』を出品する。
1950（39歳）：第35回二科展に『**森の掟**』を出品する。
この頃から「**対極主義の美術**」を唱え始める。
1951（40歳）：東京国立博物館の縄文土器に衝撃を受ける。
1953（42歳）：南仏ヴァロリスのピカソのアトリエを訪ねる。
国際アートクラブ日本本部の代表となる。
1959（48歳）：東京都庁舎の壁画に対し、フランスの美術雑誌社から
第１回国際建築絵画大賞が贈られる。
1966（55歳）：銀座数寄屋橋（すきやばし）公園に『若い時計台』を制作・設置する。
1967（56歳）：日本万国博覧会テーマ展示プロデューサーに就任。
1968（57歳）：『**明日の神話**』製作のため、メキシコにアトリエを構える。


『重工業』 1949

1970（59歳）：『**太陽の塔**』完成。テーマ館館長を務める。
1973（62歳）：全長５６メートルの飛行船に絵を描く。
1975（64歳）：『**太陽の塔**』の永久保存が決まる。
1989（78歳）：フランス政府より芸術文化勲章を受章する。
1990（79歳）：岩手県藤沢町縄文野焼祭「縄文サミット」に参加
シンボルとして『**縄文人**』を展示（後に寄贈）。

『森の掟』 1950

1996（84歳）：急性呼吸不全にて死去。
2003　：メキシコシティ郊外で『**明日の神話**』が発見される。
2006　：『**明日の神話**』修復作業完了
2008　：渋谷マークシティ２階連絡通路に『**明日の神話**』が恒久設置される。